

C&C

Cure and Care
communication

第95号

コミュニケーション

発行所 〒731-5142 広島市佐伯区坪井三丁目818-1
Tel.082-923-8333(代) <http://www.pia-gr.or.jp/>

医療法人ピーアイエー

ナカムラ病院

介護老人保健施設 まいえ
グループホーム つばい

社会福祉法人 双樹会

特別養護老人ホーム

陽光の家

通所介護事業所
居宅介護支援事業所

『他の国には例をみない急激な高齢化によるひずみ、そして間近にせまってきた本格的な高齢化社会に対する対応は我が国の重要な課題となってきました。(中略)十五年の間に老人病院としての専門性を高め、関連の部門、施設の整備を進めてきたつもりですが、まだまだ不十分です。それぞれの部門、施設で求められるような機能を十分に果たしているだろうか、それぞれの間の連携は密接、有機的になされているのだろうか。』

『残された機能を活用し、より良い状態で何とか生活して戴く、そして家族の方のご負担も軽くしよう、安心して仕事に行つて戴こう、そういった世の中のニーズにお応えしようというのが我々組織の一番の役目です。』

遅ればせながら本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

冒頭の文は、昨年九月二十一日に七十九歳で逝去いたしました創設者である中村英雄が、平成六年ナカムラ病院開設十五周年に本誌に寄せた挨拶文から抜粋いたしました。

新年度にむけて

父の最後の一年間は、ナカムラ病院介護療養型病床での療養生活となり、死去の折にはたくさんの職員に見送られての旅立ちとなりました。

『幸齢社会』を理念に掲げ、早くから来るべき高齢化問題に取り組み駆け抜けた人生でしたが、最後は自身が高齢者として老いと病に向き合っている、我々家族にも在宅介護と患者家族の立場を経験させてくれました。『老いる』ということの現実ただそのものを父はその身でもって教えてくれたのだと思っております。

さて平成三十年！診療報酬と介護報酬の同時改訂が六年ぶりに行われ、大きな転換期となる年です。そして十二月には我々の原点である中村病院開設から四十周年を迎えることとなります。

この四十年の間、高齢者を取り巻く社会情勢はめまぐるしく動いて参りましたが、先の父の言葉にもありましたように、さまざま問題点が指摘されておりながらも、未だにその着地点は見つからないままです。

我々も役割の大きさを実感する一

方で、組織としての理念と、現場の多様性、国の指針、それらを如何に折り合いをつけて部門、個々の業務につなげ、皆さまにケアとケアを提供していくのか？今まで以上に難しい課題と言えます。

とにかくこの節目のとき、父の想いをもう一度初心から立ち返る、原点回帰の年にしたいと思つて居ります。

特に摂食嚥下機能への取り組みは、父の遺した大きな財産のうちの一つです。当院は平成十三年に慢性期病院としては全国に先駆けて歯科部門を立ち上げました。以来、リハビリ、栄養科などのエキスパートが息の合ったチームで患者さまそれぞれの状態やご希望に応じた手厚い摂食嚥下リハビリ・ケアを行い、広島大学歯学部と提携の元、数々の研究成果に貢献し、嚥下に関わる商品開発などにも協力してまいりました。

嬉しいことに職員意識も非常に高く、今年は、これらの長年培ってきた当院の強みを、より一層地域の皆さまに還元できますよう共々一丸となつて努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

医療法人 ピーアイエー

理事長 中村 友美



私たちこんなことを発表してきました

第25回 日本慢性期医療学会 in 仙台

地域が創る慢性期医療

— 新たな医療への挑戦 —

会期：平成29(2017)年10月19・20日

会場：仙台国際センター

ナカムラ病院からは17名が参加し3名が発表しました。



皮膚疾患のある高齢者へのスキンケアについて

B1病棟 看護職 戸川 達成

B1病棟には、皮膚の乾燥により掻き傷や落屑らくせつの多い患者さまが多数いらっしゃいました。そこで、べたつきの少ない保湿方法はないかと考え、アレルギー症状が出にくく安全な物質であるグリセリン化粧水に着目し、皮膚乾燥状態の改善を図る目的で研究することになりました。グリセリン化粧水を毎日対象の患者さまの乾燥している所へ塗布していくことで、皮膚の状態に改善がみられ、落屑も少なくなり、べたつきもなくサラサラした皮膚へと変わっていきました。研究を行っていく中で、研究チーム以外からもいろいろな意見が出てくるようになり、病棟全体で患者さまの皮膚の状態に対する意識の向上にもつなげられたのではないかと思います。今回の研究を通して、日々の保湿ケアが患者さまの皮膚トラブルの改善・予防につながったことから保湿ケアの重要性を再認識できました。今後も快適な療養生活を送っていただけるよう取り組んでいきたいです。



業務改善への取組み ～申し送りを廃止して～

B4病棟 看護職 大霜 瑞基

この度、ベッドサイドへ少しでも早く足を運ぶために、どのような業務改善が必要なのかを当病棟の職員へアンケートをとりました。その結果、各勤務帯で行っている申し送りに時間がかかりすぎているという意見があがったため、申し送りの廃止を試みました。また、申し送りの廃止に関連した問題を明確にして対策を取っていきました。

申し送りの廃止から1ヶ月程度経過した時点で再度アンケートをとり、結果として看護師・介護士ともに多くの職員が申し送りの廃止により「効率的」・「スムーズになった」と感じていることが分かりました。

今回は申し送りを廃止しましたが、その他の業務に関しても改善を希望する意見が多くあります。今後も、患者さまのベッドサイドへ少しでも早く足を運び充実したケアを提供するために、スタッフ全員で話し合い、業務改善を行っていききたいと思います。



新規舌抵抗訓練器具「ダブルバルーン」を用いた口腔リハビリテーションの検討

歯科衛生士室主任 歯科衛生士 山根 次美

食べ物を円滑に嚙んだり飲み込んだりするために、舌の運動は欠かせません。舌の筋力や持久力を維持向上するためには舌抵抗訓練が大切になります。

この度、認知症や視覚障害、口腔内の知覚低下のある方への安全かつ効果的な口腔リハビリテーション法の確立を目指して、手指感覚を用いた舌抵抗訓練器具「ダブルバルーン」を開発しました。このダブルバルーンの有効性の検討について発表しました。

ダブルバルーンを使用して4週間訓練を行ったところ、4名中2名の方の舌圧が増加しました。また、ダブルバルーンは簡便かつ確実に訓練が行えるうえ、舌だけでなく口唇や頬など口腔周囲筋の訓練にも応用できることが分かりました。ダブルバルーンの有効性について今後も調査が必要ですが、患者さまの食べる機能を守るため、その方に合った口腔リハビリテーション法を考えて訓練を行っていききたいと思います。

シリーズ全4回

第4回

認知症サポーターって 知っていますか？

住み慣れた地域や家で最期まで自分らしく生活したい…。これは誰もが願うことですが、老後の最大の不安は社会的な問題になっている「認知症」です。

「認知症」は誰にでも起こりうる脳の病気によるものです。認知症の人が記憶障害や認知障害から不安に陥り、その結果周囲の人との関係が損なわれることもあり、家族が疲れ切って共倒れすることも少なくありません。しかし、周りの人の理解と気遣いがあれば穏やかに生活することは可能です。

地域包括支援センターでは、認知症サポーターを養成し認知症の人やその家族が地域において穏やかに生活できるやさしい地域づくりに取り組んでいます。

□認知症サポーターとは？

認知症サポーターとは、認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けしたり、見守りをを行います。認知症サポーターになったからといって、「なにか」特別なことをしなければならないということはありません。認知症の人に偏見をもたず、認知症の人や家族を温かい目で見守ること、すなわち「応援者」なのです。



認知症サポーターキャラバン

□認知症サポーターの活動・役割とは？

もしも、地域で認知症の人や家族で困っている様子が見えたら「何かお困りですか?」「何かお手伝いすることがありますか?」「大変ですね、お互いさまですから、お気づかいなく」といった一言やねぎらいの言葉をかけてくださるだけでも家族の気持ちは救われた思いがするのです。

□オレンジリングとは？

認知症サポーターの養成講座を受講された方に「認知症の人を応援します」という意思を示す「目印」であるオレンジリングが渡されます。まちの中で「この人は認知症かな」と思って声をかける時にも、オレンジリングを身につけていることで、周囲にも「あの人は認知症の人のお手伝いをしているんだな」と一目でわかる場合もあります。オレンジリングを手にした方はぜひ日常的に身につけてください。

最後に、いつ自分や家族が、あるいは友人や知り合いが認知症になるかわかりません。他人ごととして無関心であるのではなく、「自分の問題である」という認識を持ち、みなさんも認知症サポーターになって、認知症になっても安心して住み続ける地域を目指しましょう。

認知症サポーターにご関心のある方は、ぜひお近くの包括支援センターまでご連絡ください。

広島市城山・五日市観音地域包括支援センター
保健師 谷口 百合香



防災訓練について



当法人では、毎年5種類の防災訓練を行っています。訓練には可能な限り消防署の方の立ち会いを要請し、アドバイスをいただきます。

6月 土砂災害に備えた避難訓練を行います。前日からの大雨により、夜間この地域に避難指示が出たという想定です。病院、施設利用者さまを夜勤帯の職員数で各棟の上階へ避難誘導します。昼間の訓練なので病院玄関向いにある保育室の職員と子どもたちも訓練に参加して、病院建物内に避難します。

7月 夜間に火災が発生したという想定で防火訓練を行います。ナカムラ病院、介護老人保健施設まいえ、グループホームつばいで119番通報、避難誘導および初期消火の各訓練を行います。

8月 佐伯消防署の方をお招きし、職員を対象に座学として防災研修を行います。

10月 旧広島市民球場跡地で開催される「自衛消防隊消防競技大会」に出場します。昨年は「消火器男女の部(2人操法)」に出場しました。

11月 震度6強の地震と、それにもない火災が発生したという想定で訓練を行います。本部指揮、通報連絡、避難誘導・安全防護、応急救護の各班がそれぞれに与えられた任務を遂行します。

災害から病院、施設の利用者さまと職員を守るため、訓練を通して個人と組織全体の対応能力向上を目指します。

防火・防災管理者 中田 英雄



院内研修

ノロウイルス吐物処理研修

替え、汚染衣類などを処理する者に場面を分け実践。また、外来患者へは汚染衣類の消毒、洗濯方法や受診の声かけも行いました。熱心にメモする参加者も多く研修は無事終わりました。今回の研修を終え、参加出来なかった職員にも是非この内容を伝え、ノロウイルス対策のポイントを全職員が理解した上で患者さまと職員の両者が安全に感染予防対策を出来るよう今後も取り組んでまいります。

まいえ2 介護主任 板谷 真弓



今回の研修は、毎年行う「ノロウイルス対策研修」を「認知症患者・臥床患者・外来患者」の三場面に対応したもので感染対策委員を中心に行われました。マニュアル作成と実践演習では、感染者への吐物処理を迅速且つ安全に行い二次感染を予防する手順が示され、その見直しは幾度も行われました。そして迎えた十一月二十四日の研修には業務終了後の大ホールには百十名余りの職員が各研修場面を取り囲み、開始前から関心の高さを伺わせていました。

研修ではまず実際の状況を想定し関係者以外の立ち入りを禁じ、処理者は防護具を着用。着色したトロミ茶を吐物とし、処理マニュアルに則り処理する者、患者さまの着

高齢者いきいき活動ポイント事業のご紹介

広島市は、高齢者の社会参加を応援するため、「高齢者いきいき活動ポイント事業」を平成二十九年九月から始めました。高齢者が地域のボランティア活動や健康づくり、介護予防活動に参加して、ポイント手帳にスタンプを集めると、奨励金(1ポイント百円。年間上限額一万円)に換算して支給されます。対象者にはポイント手帳が配布されています。

すでにたくさんの方の活動団体が登録しておりますが、当院も早々に登録を済ませ九月からポイント付与を開始しております。

それでは、ナカムラ病院でポイント付与の対象になる活動についてご紹介いたします。

- ① 認知症カフェへの参加↓自らの健康づくり、介護予防に
取り組む活動(1ポイント)
- ② 認知症カフェのお手伝い↓
地域の支え手となるボランティア活動(4ポイント)
- ③ その他ボランティア活動(2ポイント)



▲ポイント手帳です

※当日ポイント手帳をお忘れの場合、お名前を控えさせていただき、後日スタンプを押すことが出来ますので、遠慮なくお申し出ください。

認知症カフェに参加下さった皆さんのポイント手帳を見せていただくと、すでにたくさんの方のスタンプが押し、社会参加への意識の高さを感じました。

このポイント事業がきっかけとなり、皆さんがさまざまな活動に参加される機会が増えて行き、健康づくりや生きがいづくりに繋がっていくことを願っています。

地域連携センター

センター長補佐 中村 智子

第2回

認知症勉強会を開催しました



平成二十九年十月十四日、認知症勉強会を開催しました。

この会は、認知症の理解を深めていただくことを目的として、地域住民の方を対象に開催している勉強会です。

二回目となる今回は「認知症の予防について」というテーマで企画し、二十五名の方に参加していただきました。

勉強会の前半は塚野院長が講師を務め、「認知症を予防するには運動、食事、知的活動、社会とのつながりが大切です」という内容の講義を行いました。身近な例やわかりやすい例えを交えて時折笑いも起こる楽しい講義となりました。

後半はリハビリスタッフによる認知症予防体操を行いました。この

体操は体を動かすだけでなく、頭も使う体操です。途中スタッフも間違えてしまうこともあり、こちらも笑顔がこぼれて楽しく学べる時間となりました。

今後もナカムラ病院では地域の皆さまとともに良い地域づくりをしてまいります。

地域連携センター

まいえ部門主任 石田 優一朗





歯科の扉

～ご存知ですか?「舌圧」～

みなさん、「舌圧」という言葉をご存知ですか?

食べ物を飲み込む時は、舌を口蓋(口の中の天井部分)に押し付けて、喉や食道へ食べ物を送り込みます。この時の舌の力を「舌圧」と言い、特殊な機器で測定する事ができます。舌圧は加齢とともに弱くなり、20(kpa)未満になると飲み込みに障害が出てくる可能性があると言われています。また、食べ物が口の中や喉に残ってしまい、誤嚥性肺炎の原因にもなります。

舌圧が弱くならない様、普段の生活の中で、舌を鍛える訓練等を行う事が大切です。(図は訓練の一例) 詳しい方法は当院歯科スタッフまたは言語聴覚士まで是非ご相談下さい。



歯科医師 山脇加奈子

つばい こぼれ話

クリスマスの巻

もうすぐクリスマス!!
手作りのリースを製作中です。
「私は切る係よ」「じゃあ私は、貼ってあげる」と会話がはずみ、楽しい時間が過ぎていきます。

グループホーム つばい
介護職 福山 知恵



陽光の家通信

【ナチュラルガーデン作り】

陽光の家では三年前より園芸担当の職員と他職員の協力のもと、裏庭及びベランダでの野菜や花作り、正面花壇においてのナチュラルガーデン作りに取り組んでおります。
春には土作りやプランターの土の入れ替え作業を行い、五月に植え付け、水やり、ネット張り、支柱立て、追肥を行い、正門花壇では四季を通して色とりどりの花を絶やさないような花壇作りを行っております。野菜作りの経験のある利用者様もおられ、「トマトの芽を摘まんにゃあ。草をむしらにゃあ。」と、色々アドバイスをして下さり、昔話で会話も弾み普段とは違う表情が見られました。

収穫時にも利用者さまに手伝っていただき、「施設でこんなことをさせてもらえるとは思いませんでした」と、収穫した野菜を手を持ち、満面の笑顔で喜びを表現されました。秋には沢山のさつま芋を収穫し、下準備も利用者さまと一緒に、焼き芋を焼きおやつ時に食べていただきました。

今後、外気に触れ、自然と触れ合う機会を提供することで、心の癒しになればと思っております。
特別養護老人ホーム 陽光の家
介護主任 花岡 富士子



平成二十九年十一月二十八日に、毎年恒例の秋のバスハイクに行きました。昨年はバスでドライブしながら紅葉を楽しむという内容でしたが、今回はもう少し足を延ばし3年ぶりにかかしの里へ行きました。かかしの里は湯来町上多田集落にあり、テレビ番組でも取り上げられるほど有名な所です。集落の人口は百人を切っているようですが、約百六十体と人口よりも多いかかしがお出迎えしてくれました。中には釣りをしている姿のかかしやブルゾンちえみといった流行の物までリアルに作られています。初めて行く利用者さまもおられ、そんなかかしを見てとても喜ばれていました。バスを降りてかかしの前まで行き記念撮影をしましたが、寒いのも忘れてかかしを近くで見ても感心されていました。



▲ブルゾンちえみ with Bと一緒に記念撮影



▲近所の人?いいえ、これもかかしです!

今年には紅葉には少し遅かったですが、かかしの里で楽しんだ後にはにぎや家に戻り、暖かい冬瓜汁と美味しい弁当を食べ皆さんとても満足された様子でした。

地域連携センター

にぎや家部門主任

中森

一宏

いきいき行事ダイジェスト

10月

- 小運動会 (B7)
- ドッグセラピー&10月誕生日会 (まいえ2)
- 大正琴演奏会 (つばい)
- 紙芝居 (A3)
- フルーツバイキング (まいえ2)
- 秋の食事会 (にぎや家)
- ケーキバイキング (まいえ1)
- お茶会 (B6)
- 屋上散歩とフルーツバイキング (B5)
- 秋祭り (B1)
- 書道クラブ (陽光の家)
- 法話会 (陽光の家)
- 秋祭り (陽光の家)
- 喫茶ボランティア・売店 (陽光の家)
- 陶芸教室 (陽光の家)



11月

- 外食 (つばい)
- 寒さふっ飛ばし『運動会』とお誕生日会 (まいえ2)
- 運営推進会議 (つばい)
- ケーキバイキング (B5)
- 昼食バイキング (まいえ2)
- 大正琴演奏会 (全体行事)
- ケーキバイキング (まいえ2)
- フルーチェ作り (B7)
- 法話会 (リハビリ)
- 秋のバスハイク (にぎや家)
- 陶芸教室 (陽光の家)
- 法話会 (陽光の家)
- 書道クラブ
- フラワーアレンジメント教室 (陽光の家)



12月

- 年忘れ『忘年会』とお誕生日会 (まいえ2)
- クリスマス会 (B5・A3・つばい・全体行事)
- 楽しいクリスマスパーティー (まいえ1)
- クリスマス会
～B6少年少女合唱団がやって来る!
ハンドベルの演奏もあるよ (B6)
- クリスマス会 ケーキバイキング (B7)
- 年忘れ カラオケ大会 (にぎや家)
- 昼食バイキング (まいえ2)
- 陶芸教室 (陽光の家)
- 書道クラブ (陽光の家)
- フラワーアレンジメント教室 (陽光の家)
- 慰問【そよ風】 (陽光の家)



カレンダー展 2018年

今年も恒例の企画として「2018年カレンダー展」を開くことにいたしました。

皆さまのご協力で200点余りのカレンダーが寄せられ、その中から102点を展示いたしました。

今年は、PIAギャラリー創設者の前館長 中村英雄、そして顧問であり、常にきめ細やかな企画を心掛けて下さいました故・赤木博典氏不在の展示会となりましたが、両氏の遺志を引き継ぐべく、共々で情熱を込めて懸命に取り組みました。

本企画展開催にあたり、ご協力いただきました皆さまに心からお礼申し上げます。

展示会終了後は、ご希望の方にカレンダーを贈呈させていただきます。

どうかこのカレンダー展が、皆さまの一年の初まりのお気持ちに沿いますことを念じて、新年のご挨拶といたします。



新館長 中村 友美



カレンダーの展示は1/25(木)で終了しています。

認知症カフェだより

いつもサロン・ド・ファミーユをご利用いただきまして誠にありがとうございます。

昨年10月に開店1周年を記念して、バイオリニストの上野眞樹先生をお招きし、ミニコンサートをを行いました。客席はほぼ満席となり、上野先生の奏でるバイオリンの音色に心癒されるひと時となりました。

上野先生は、演奏しながらその曲の持つ意味を解説して下さいるので、音楽に疎い私でも楽しんで聴く事が出来ました。また、ドイツのオーケストラでコンサートマスターとして活躍されていた頃のお話や、ドイツの高齢者福祉についても分かりやすくお話ししていただき、とても学びのある演奏会となりました。

また、今回は、バイオリンの演奏に合わせてラジオ体操を行いました。上野先生から、「バイオリンでラジオ体操を演奏するのは生まれて初めてのこと」とお聞きし、とても貴重な体験をさせていただきました。

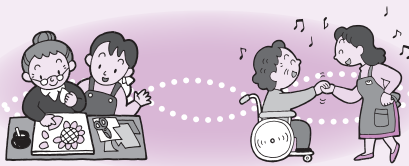
これからも皆さまのご来店を心よりお待ちしております。

サロン・ド・ファミーユ
店長 中村 智子



看護・介護の理念

我々看護・介護職は、患者さまの自立を目標に精神的、肉体的苦痛を軽減し、尊厳を持って安心・安全な療養生活ができる看護・介護を提供します。



ピーアイエー理念

我々グループは幸齢社会を創ります

我々グループは、今後増大する高齢者の医療、福祉の要望や要請に対応したサービスを創造する社会的使命を自覚し、精神的、肉体的苦痛や負担を軽減し、残りの人生を安心して幸福に送って頂ける環境を提供します。

ボランティアさん募集

囲碁・将棋の相手、園芸活動のサポートなど

あなたの趣味、特技で利用者さまの生活に彩りを添えてください。個人もグループも歓迎いたします。

現在、生け花、民謡、メイクアップ、書道、フラワーアレンジメント教室の講師、お茶席、ギャラリーの展示作業など、多くのボランティアの方々にご協力いただいています。

お問い合わせは…

TEL (082) 923-8333 (担当:中田)



編集後記



新年あけましておめでとうございます。

一年の計は元旦にあり、と申しませんが、皆さまは今年の目標は立てられましたでしょうか。

私の今年の目標は、健康的な生活習慣を身につけることです。

規則正しい生活、バランスのとれた食事、そして適度な運動を始めて、それを維持して習慣にすることが目標です。

皆さまも健康で充実した一年をお過ごしください。(I)